

2010年度Smips特許戦略工学分科会報告

2011年4月16日 報告:片岡

発足:2003年10月11日 MLメンバー数は133名 (2011年3月12日時点)

特許戦略工学分科会の目的は、特許戦略工学を研究し、特許戦略論の普及および特許戦略システムの構築の引き金になること。

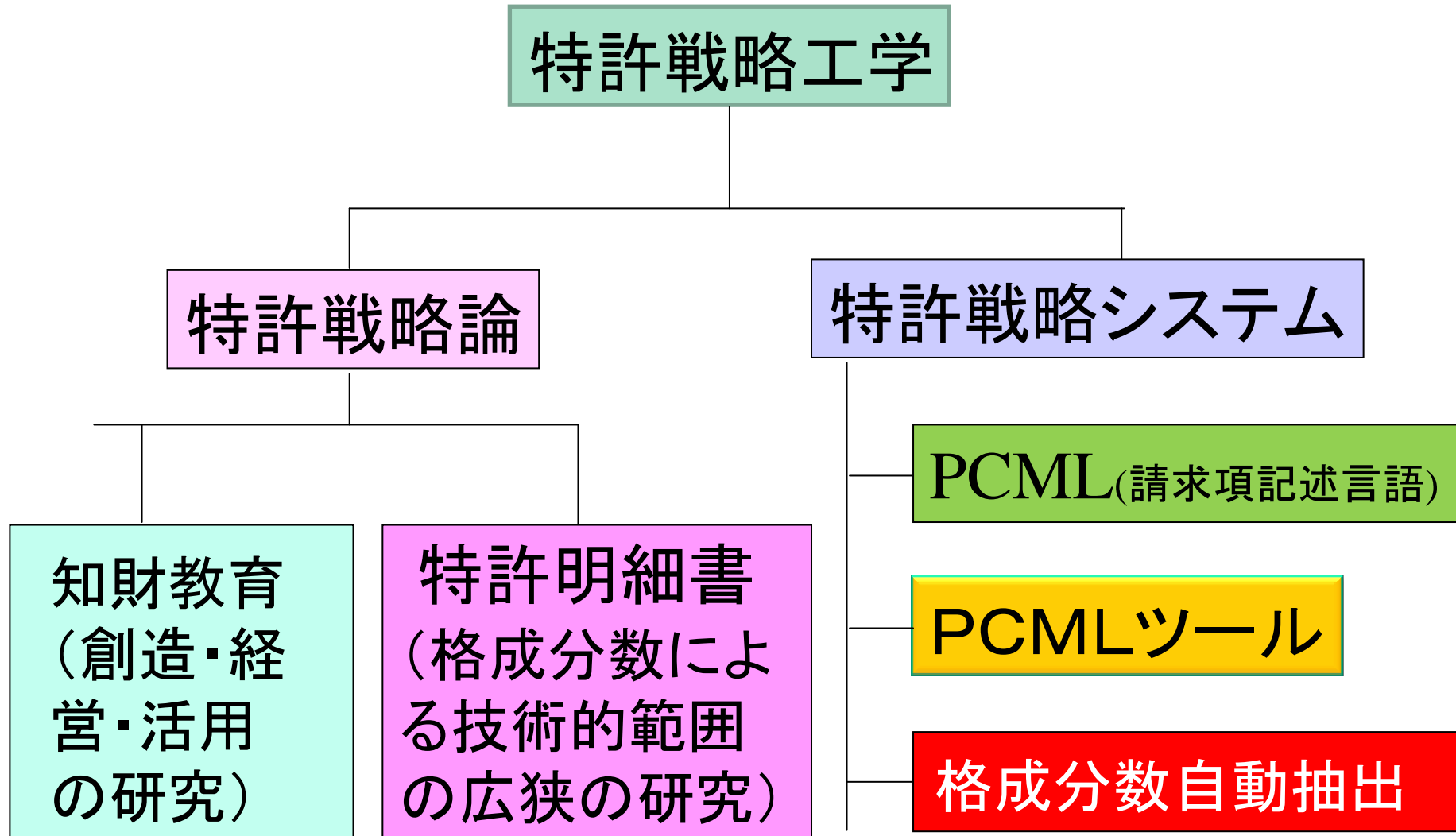


オーガナイザー: 片岡 敏光
赤間 淳一
安彦 元
綾木 健一郎
久野敦司(京都在住)

http://groups.yahoo.co.jp/group/Patent_Strategy_Engineering/

http://www.patentisland.com/Patent_Strategy_Engineering/Result.html 1

特許戦略工学は、特許戦略論と特許戦略システムから構成



PCML (請求項記述言語とは):

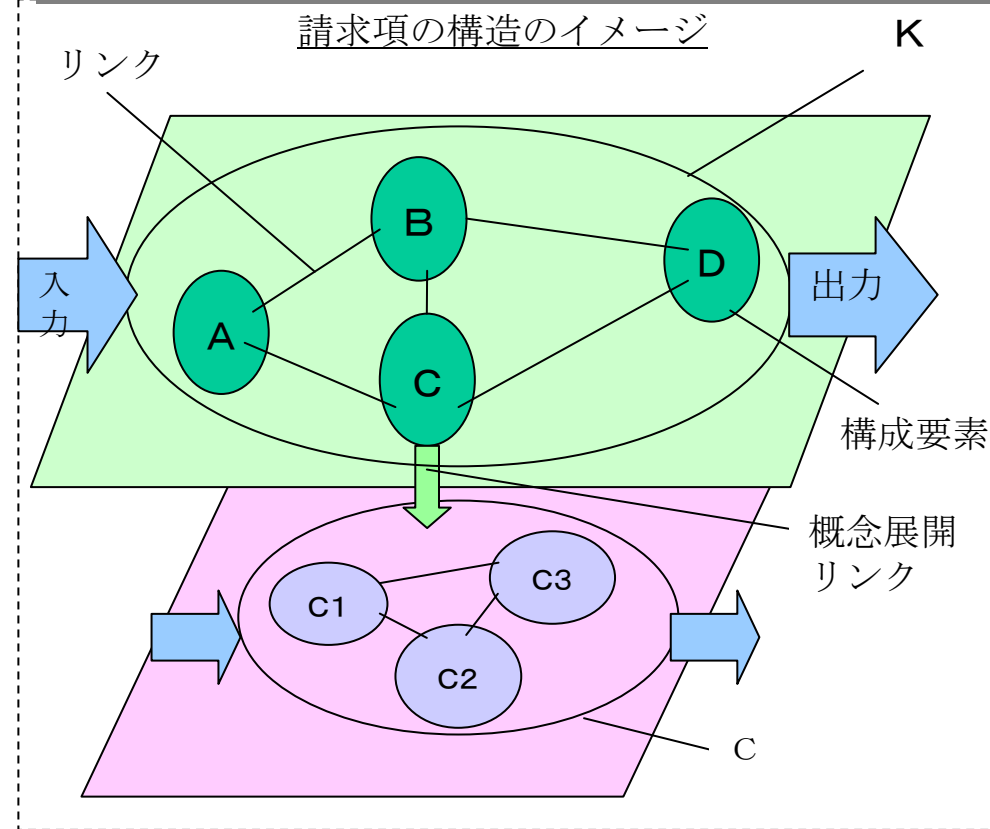
人間にとってもコンピュータにとっても明瞭で理解しやすい構造を持つように請求項を記述するために用いる言語

英語表記

PCML: Patent Claim Markup Language

インターネットの世界でWeb上の様々なコンテンツ(文字、図、絵、画像、音)を居ながらにして見れるのは、陰に、HTML、XMLというタグ付けられた記述言語が存在しているから。同様に、「請求項」をタグ付けた記述言語PCMLで記述すれば特許法等を知らない素人でも、発明や権利範囲を直感的に理解できるようにコンピュータが支援する。

特許請求の範囲に記載される請求項は、構成要素と、構成要素を結合するリンクからなるグラフ構造である。これをPCMLで記述できる。



発明を把握するためには、構成要素と他の構成要素との接続に使用されるリンクが、それぞれの構成要素の性質に適合し、外部からの入力と請求項の構成要素およびリンクの作用で出力される過程が、発明としての特徴事項を表すことになり、これらの構造は、タグ付けられた請求項記述言語で表現可能となり、その請求項は、人間またはコンピュータに、発明の構成と作用・効果の関係が理解可能に記述された請求項であると言える。

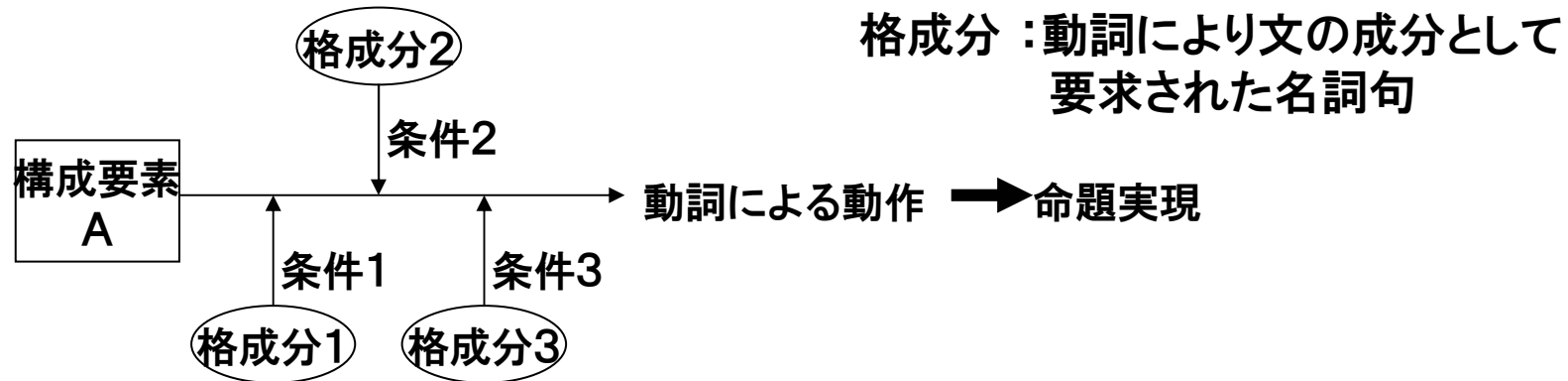
階層構造

構成要素やリンクの意味を定義した概念辞書

請求項を理解する主体である人間またはコンピュータに用意する。

定量的指標としての格成分数

特許請求の範囲の記載において各構成要素につきどれだけ限定がかけられているかを数値化したもの



■ LD(格成分数)の抽出例

「 ユーザからの要求に応じて 駆動信号を 生成する 信号生成手段と～」

1 格成分 1 格成分 動詞

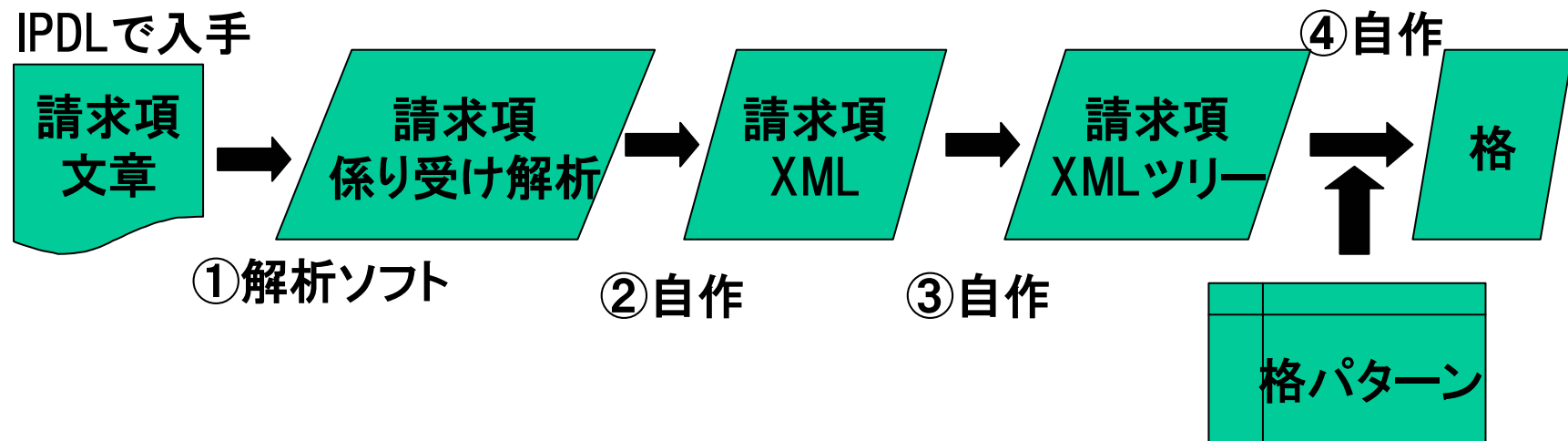
The example sentence is: 「 ユーザからの要求に応じて 駆動信号を 生成する 信号生成手段と～」. Below the sentence, three boxes are drawn under the words 'ユーザーからの要求に応じて', '駆動信号を', and '生成する'. The first two boxes are labeled '1 格成分' (1 Case Component) and the third is labeled '動詞' (Verb).

「生成する」という動詞に対しては全部で2格成分数

・動詞による命題を実現するための動作開始条件として、“ユーザからの要求に応じて”いなければならない、さらにその対象として“駆動信号”を生成しなければならないため、これら2つが動詞による命題実現のため条件数となっている。このため格成分数は、2となる。

請求項(クレーム)の格成分の自動抽出方法の研究

- ①請求項(改行有)を、係り受け解析ソフトで解析。
- ②係り受け解析結果を、XMLに変換。
- ③このXMLの係り受け構造をXMLツリーで表現。
- ④XMLツリーと格パターンとを照合して格成分を抽出。



2010年度活動計画

- ・格成分の自動抽出ツールの開発、検証
- ・PCMLと格成分数との融合
- ・技術進化・イノベーションの検討
- ・特許戦略に係る講演

2010年度の特許戦略工学分科会の例会発表内容と主な成果

- 2010年4月10日 特許価値を高める明細書のチェック
(人手のみ、明細書チェックツール使用、どちらが正確?)
磯野国際特許商標事務所 綾木健一郎 氏
- 2010年5月15日 著書「死蔵特許」にまつわる話
榊原 憲 氏
- 2010年7月10日 引例・被引例特許調査の活用法
(株)パットブレン 代表取締役 片岡 敏光
知財学会第8回研究発表会発表報告
磯野国際特許商標事務所 綾木 健一郎 氏
- 2010年10月16日 「MS Excelを用いた特許情報分析」
日本技術貿易(株) マネージャー 野崎 篤志 氏

2010年度の特許戦略工学分科会の例会発表内容と主な成果

- 2010年11月13日 「TRIZ活用の知財戦略」見える戦略・見えない戦略
(株)パットブレン 代表取締役 片岡 敏光
- 2010年12月18日 「知財コンサルが考える、知財戦略マネジメント」
～知財の壁を壊せ～
アーンスト・アンド・ヤング・トランザクション
・アドバイザリー・サービス(株) 山崎 忠史氏
- 2010年1月15日 「総括・格成分数」
ミノル国際特許事務所弁理士 安彦 元氏
- 2010年2月19日 (全体セッション・分科会セッション)
「顧客ニーズと知的財産」
ハウス食品株式会社 マーケティング本部
知的財産部 知的財産課 和泉 守計氏

知財とTRIZの融合を図る活動

Smips特許戦略工学分科会での活動 (2003年~)

2005年度特許戦略工学分科会報告
オーガナイザー 片岡 誠光

特許戦略の形態

特許戦力の活用形態は、動機、攻撃、威圧、宣伝、提携の5形態である。

特許戦略の形態

特許戦力の活用形態は、動機、攻撃、威圧、宣伝、提携の5形態である。

特許戦略の形態

特許戦力の活用形態は、動機、攻撃、威圧、宣伝、提携の5形態である。

http://www.patentisland.com/Patent_Strategy_Engineering/Result.html より

3つの“CHIZAI”

知恵

知財

発明、創作、アイデア
ノウハウ、著作物...

血財(人)

伝統、文化、宗教、
思想、感情...

地財(環境)

地球、自然、資源、
地理、国家...

©Copyright 2009-Monikazu Izumi



TRIZシンポジウムで講演する片岡オーガナイザー



Smips全体セッションで講演される和泉講師

H10年度 トピック！

TEPIA会長賞 当分科会安彦オーガナイザー受賞

受賞テーマ:「特許請求の範囲の限定度を数値化するスキームを提案し、その戦略的応用を示した業績」



研究成果(外部発表 その1)

● 学会発表

2010年6月19日 日本知財学会第8回年次学術発表会

「発明の本質抽出能力の鍛錬と試験の方法」

久野 敦司

「請求項(クレーム)の格成分の自動抽出への挑戦」

綾木 健一郎、片岡 敏光、赤間 淳一、安彦 元

● シンポジウム講演

2010年9月9日 NPO法人日本TRIZ協会 第6回 TRIZシンポジウム

テーマ講演 「TRIZ活用の知財戦略と実践」

片岡 敏光

● 解説論文

2011年1月 情報の科学と技術 61巻1号 pp34-39 (2011)

「請求項の記載限定度合を示す格成分数の自動抽出方法の提案」

綾木 健一郎、片岡 敏光、赤間 淳一、安彦 元

● 掲載記事

「発明」誌 2011年 1・2月号

「技術的範囲の定量化に挑む ～格成分の研究～その1、その2」

安彦 元

研究成果(外部発表 その2)

● 査読付論文

- ・日本知財学会誌 Vol.7 No.1 pp54-67 (2010)
「有効活用性に影響を及ぼす特許請求の範囲への意思決定の分散に関する研究」
安彦 元、田中義敏
- ・日本感性工学会論文誌第9巻第3号 pp511-518(2010)
「総格成分数により規格化した技術的範囲に対する特許率の分析」
安彦 元
- ・技術と経済5月号(日本MOT学会査読論文).pp50-pp57(2010)
「特許化可能な技術的範囲の広さに関する技術分野間の定量的差異の検証」
安彦 元
- ・技術と経済2月号(日本MOT学会査読論文).pp41-pp47(2011)
「近年の特許侵害訴訟の最終処分に対する技術的範囲の広さの影響」
安彦 元

2011年度活動計画

- ・格成分の自動抽出ツールの開発、検証
- ・PCMLと格成分数との融合
- ・技術進化・イノベーションの検討
- ・特許戦略に係る講演

月 日	予定
4月16日(土)	講演「御社の特許戦略がダメな理由」 長谷川氏(全体セッション)
5月14日(土)	講演「女子大生マイの特許ファイル」稲森氏(全体セッション)
6月11日(土)	講演「たった一人のビジネスモデル」川北氏(全体セッション)
7月9日(土)	知財学会発表報告
10月8日(土)	講演「特許明細書のチェック法」橘氏
11月12日(土)	外部講師を招いて講演
12月10日(土)	研究成果中間報告
1月14日(土)	外部講師を招いて講演
2月18日(土)	研究成果最終報告
3月10日(土)	2011年度活動報告、次年度計画